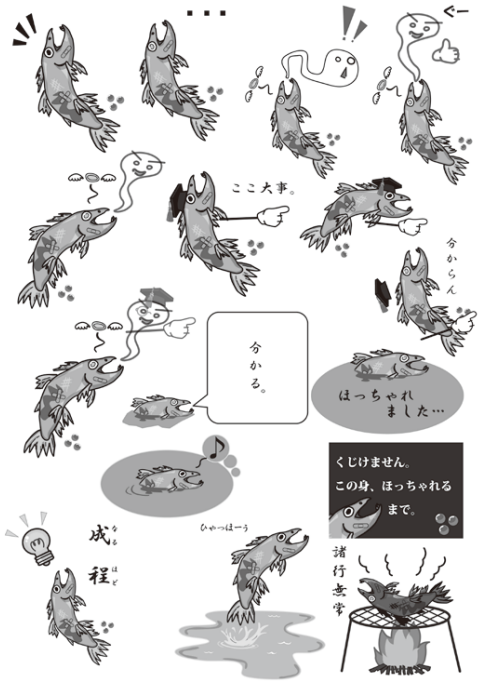
新進気鋭？のキャラクター「ほっちゃれくん」誕生秘話

澤田　恭平*

「今度の企画展ために新しいキャラクターがほしい」と、担当者から相談されたのは、企画展を間近に控えた６月半ばのことでした。当館のキャラクターとしては、博物館の外観をモチーフにした「はっくん」がいます。当初、はっくんや過去の展示で誕生したキタサンショウウオの「しべお」にサケの着ぐるみを着てもらおうかな？などと思っていたところ、職場仲間からサケの「ほっちゃれ」の話を聞きました。

諸説ありますが、ほっちゃれとは北海道の言葉で産卵を終えたサケの事をいいます。大海をめぐり、自身が生まれた川を産卵のために文字通り身を削りながら遡上するサケたち。そして生き物としての使命を終えてほっちゃれとなり、鳥や虫たちの食べ物として自然のサイクルへと帰っていく。そんなサケの集大成ともいえるほっちゃれは、企画展「サケとマス　誕生・回帰・遡上」というタイトルにもぴったりだと思いました。「不気味じゃないか？大丈夫か？」と不安の中、放流したほっちゃれくんではありますが、当館の一員として今後とも泳ぎ、跳ね続けるほっちゃれくんをどうか可愛がってあげてください！

＊釧路市立博物館



「ほっちゃれくん」です。

博物館周辺のエゾシカの食性（観察記録）

加藤ゆき恵*

博物館周辺ではエゾシカの群れが頻繁に見られる。断片的ではあるが、興味深い行動を観察したので、写真と共に記録する。

博物館近くの駐車場脇にはイタドリが植栽されており、その周りでは複数頭のエゾシカが一斉にイタドリを食べる様子を何度も目撃した。イタドリの近くには野生のオオイタドリが多数生育しているが、この近辺ではオオイタドリではなくイタドリを選択的に食べているようであった。知床半島ではエゾシカによる被食でオオイタドリの群落が消滅したという記録があり、他地域でも類似の例があることから、エゾシカがオオイタドリを好まない訳ではないようである。他にも、年によって野草園の食害状況が異なっているようすも見られ、今後も注視していきたい。

イタドリを食べるエゾシカの群れ。

食害を受けやすい群落の外側は草丈や葉のサイズが小さくなっている。

低木のエゾヤマザクラの枝を引っ張り、葉を食べるエゾシカ

＊釧路市立博物館